

ヒューマンライツ・メッセージ

創作落語「約束の海 ～エルトゥールル号物語」



桂 春蝶 さん



日本とトルコの友好関係の始まりとされる国境を超えた救出、軍艦エルトゥールル号遭難とテヘラン邦人救出劇にまつわる創作落語。

2月15日(日)

開演 午後2時30分

開場 午後2時

場所 守口エナジーホール (京阪守口市駅前)

定員 250人

手話通訳・要約筆記あり



申込 守口市人権市民相談課 (電話06-6992-1512)
門真市人権市民相談課 (電話06-6902-6079)
両国人権教育ネットワーク (電話06-6954-5709)
もしくは専用フォームから

参加費 無料

＜桂春蝶からのメッセージ＞

本当に感動したもの、心を揺さぶったもの、伝えなければならないと全身全霊で想ったもの…僕にとってそれらは創作意欲の原点でもあるのですがそれを満たすに余りあるのが「エルトゥールル号」に纏わる話です。

何度、この伝記を読み返しても涙しない事はありません。百年を経てもなお、命を賭け果たされる恩返し。人間の温もりを、優しさを、本当の意味での正義を…これこそ「伝えなければならない真実」そう確信いたしました。

感動は希望へ。

エルトゥールル号を巡る物語が皆様にとって「明日への希望」となります事を願ってやみません。



1890年（明治23）年秋。一隻の船が横浜を出港した。オスマン帝国（トルコ）から明治天皇の表敬訪問に来ていた軍艦エルトゥールル号。ところが台風が接近で、エルトゥールル号は強風にあおられて漂流し、本州最南端の和歌山県串本沖で岩礁に乗り上げ、エンジンが爆発、直後に沈没してしまう。乗組員587名が死亡または行方不明という大惨事になった。しかし、串本町大島の人々は不眠不休で生存者の救助と介抱し、69名が救出された。この救出劇はオスマン帝国に伝わり、日本への親愛の情が大いに高まった。

それから95年後の昭和60年（1985年）。イラン・イラク戦争の激化により、イラクのフセイン大統領は、「今から48時間が経過したらイラン上空を飛ぶ航空機は国籍に関係なく撃ち落とす」と宣言。テヘランの在留邦人265名が脱出不可の危機に直面する。各国の航空機が次々に自国民を救出していくなか、日本からの救助機は現れない。その窮地にテヘラン空港に降り立った民間航空機。トルコ航空の航空機によって邦人が救出。タイムリミットの75分前だった。危険を顧みず救援機を派遣してくれたのがトルコだったのである。後になって元駐日トルコ大使が「エルトゥールル号の事故における日本人の献身的な救助活動、トルコの人たちは決してそのことを忘れていません。」と語った。

トルコは、過去の恩を忘れず、百年の時を超えて日本に恩返しを果たした。

桂 春蝶 さんのプロフィール

実父である二代目桂春蝶の死をきっかけに落語家になることを決意。

翌年、三代目桂春團治に入門。故桂春蝶三回忌追善興行にて初舞台を踏む。

2009年に開催された三代目桂春蝶襲名披露公演は大阪松竹座、京都南座をはじめ全国20ヶ所で行われ、各地でチケットが完売。2011年12月笑福亭鶴瓶師の勧めにより、東京に拠点を移しテレビ・ラジオ、講演活動にも活動の場を広げ、近年は国内だけでなく、韓国、台湾での落語会も成功をおさめ、文化の違いを超えて落語の世界を海外に広めている。2014年3代目桂春團治に入門し春菜を名乗ってから20年目を迎え、芸能生活20周年記念公演として独演会や「桂春蝶の落語で伝えたい想い。」をシリーズ化し、「伝承落語」として新作落語を披露。また、落語の新境地を切り開くため伝統芸能、音楽など多彩なジャンルとのジョイントにも積極的に挑戦して参り、20周年記念公演の締めくくりとして、芸能生活20周年記念特別公演として、2015年2月大阪・フェスティバルホールにて上方落語家として初の独演会を開催。